

凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第8号 2023.6.2(金)

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

生徒指導(6月)目標「履物のかかとをそろえる」～自分と学校を整える～

生徒指導の月目標は、やつしろスピリッツを基盤とした取組になります。一中生全員が同じ目標に向かって、誰にでもできる平凡なことを誰にもできないくらい徹底して取り組み、一つ一つ積み重ねていくことこそがとてつもなく大きな力(一中生の成長)につながるものだと確信しています。

『履物のかかとをそろえる』(一中生、力を合わせて、完璧にやりきろう)

①立ち止まって ②心を落ち着かせて ③かかとを縁に揃える

かかとを縁に揃えることは、集中力が増し、学力向上にもつながります



私は以前(20年程前)、一中の弓道部顧問をしていました。一人一人が、かかとを靴箱の縁に合わせてそろえ、集中力を高めようと全員で取り組んでいました。「弓道の澄まし」とは、雑念を捨てて、純粋な心で弓を引くことに集中している状態をいいます。これを履物の着脱の際に毎回行うことで、知らず知らずのうちに集中力が増し、一人一人の心が落ち着くことにつながりました。また、この取組を全ての部活動、学級で徹底したことが、学校全体の落ち着きにつながっていました。また、履き物をそろえるといえば、『脚下照顧(きゃっかしょうこ)』という言葉があります。以前、

修学旅行で座禅の体験をした建仁寺のトイレに書かれていた言葉で、「自分の足元をよく見つめよう」という意味があります。社会の教科書にも登場する曹洞宗の開祖でもある道元の言葉です。履き物をそろえることも、自らの足元を見つめることから始まるように、道元禅師は「自分の履物を揃えられないような者に何ができるのか。まずは、履物を揃えることから始めなさい。」「だれもが次に玄関を通る人のことを考えて靴をそろえることができると、気持ちのよい社会になる。」と諭したそうです。非常に意味深いものだと、私自身、当時の学びを思い返してみました。

「夢実現・自己実現」コーナー「意識して」立ち止まる！大谷翔平選手の言葉より

大谷翔平選手がさりげなく行うゴミ拾いが、世界中で話題になっています。実は、大谷選手は「意識して」立ち止まり、毎日、グラウンドのゴミを拾っているとのこと。

チームの大先輩稲葉篤紀(元侍ジャパン監督)が、ベンチ前のゴミを拾ったのを見て感動して、それを真似るようになったとのこと。大谷選手は、それを「人が捨てた運を拾っている」と表現します。ゴミを拾うのは小さな行為ですが、自身の平常心を保ち、冷静にプレーするためのルーティーンになっているとのこと。何事においても、「意識して」からのスタートが、継続することで「無意識」になり、自分の形(自然な姿)＝成長として表れてくるように、日々感じています。